

## 第4回流山市補助金等審議会会議録

- 1 開催日 平成24年11月27日 (火)  
午後2時から
- 2 場所 流山市役所第2庁舎第302会議室
- 3 出席委員 伊藤会長、山口副会長、西村委員、前田委員、松本委員、  
廣田委員
- 4 欠席委員 柴委員
- 5 事務局 安井財政部次長兼財政調整課長、伊藤財政調整課長補佐、松岡主  
事、古川臨時職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議題  
(1) ヒアリング結果について
- 8 配布資料  
平成25年度新規補助金及び増額等補助金に係わる各委員評価一覧

(伊藤会長)

それでは、今日の議題に入りたいと思います。本日の会議は、委員、出席6名、欠席1名です。6名出席ですので、会議は成立していることをご報告します。

なお、あらかじめご報告申し上げますが、流山市では「審議会等の会議の公開に関する指針」を策定し、審議会等の会議は原則公開とする旨規定しておりますことから、本審議会も公開といたしますので、あらかじめご了解をいただきたいと思います。

本日はそれぞれ各委員の総合評価についての議論をしたいと思います。では新規3件から始めたいと思います。

まず、21番流山市国、県指定文化財保存事業ですがA評価が4つ、B評価が2つ、多数決で言うとA評価になりますがいかがですか。

(山口副会長)

今回これは新規ですが、0円要求になっています。なのでーにして今後補助金として要求が出た要綱を定めるということにしたほうが良いと思います。

(事務局)

25年度は、たまたま要求がございませんので、0円になりましたが、要綱も含め、この補助金が妥当かどうかの評価として、考えていただければと思います。基本的に

災害などがあつたときに、発生（修繕）するものでございます。

（西村委員）

これは項目（事業）を認めるのか。それとも金額を認めるのかなんですか。

（事務局）

今回は、項目でお願いします。

（伊藤会長）

それでは要求額は0円ではなく一でA評価でよろしいでしょうか。

（各委員）

賛同

（伊藤会長）

では、次に11番農業生産法人設立事業補助金についてですが、A評価が3つ、B評価が3つになっております。

私がなぜA評価にしたかと言いますと、他の農業の事業が、高齢化に伴って後継者不足で斜陽化なのに対して、過保護すぎるのではないかというのか、私の農業に対する考え方なんです。そういう中で、斜陽化し、後継者がいなくなり過保護にするよりは法人化にまとめてたほうが良いのではと思いましたが、ただ、A評価に拘るつもりはありません。他との農業の関係でA評価にしました。

他の委員の方は何か意見ありますか。

（前田委員）

私はA評価にしていますが、農業の自立を図るといふのは大事なことです。問題なのは過保護であるとか、毎回農業のことは疑念が付きまとうんです。草刈でも、お金が出なければ、草刈をやらないですよ。そういう部分が、少しひっかかります。農家が積極的に乗ってくるのか、疑念が残ります。趣旨そのものは良いと思います。

（西村委員）

私は農業と書いてあるから、そちらに気がいくのであって、これは企業の設立なんです。商業か、工業か、農業かなんですよ。市の主体は農業ではないでしょう。この前も企業立地の話を聞きました。企業の設立として考えるものです。とは言っても、新聞などを見ても、全国的に最近流行りにはなっているのは事実です。市も負けられない様になっているんだ、との評価としてB評価にしています。

（前田委員）

農業には、色々な背景があるから手が付けられないでしょ。

（西村委員）

農業であれば、補助金を減らすなら減らし、新しいものを作るなら作る様にしなないと、どんどん高齢化が進む中、補助金を増やしていても困るし、増やすのは良いけど減らすことも考慮しながら、スクラップ・アンド・ビルドをしないといけないと思います。

（山口副会長）

市全体で農業というものを、きちんと考えないといけないですね。市の農業振興政

策が必要です。早めに市としても、作ってもらいたいです。

(前田委員)

市には、専業農家は少ないですよ。兼業農家の方が、大部分です。そういう意味では、農業政策は難しいです。

(山口副会長)

市としては、色々な問題があります。農業生産法人があれば、どんどん支援してもらいたいものです。

(西村委員)

企業誘致も良いけど、こういうのを助成して例えば光栽培とかで野菜を作るのもいいんじゃないですか。

(山口副会長)

農業生産法人であれば、A評価が付きますが、全体から見るとB評価に偏ってしまう感じですよ。

(伊藤会長)

まだ、あいまいな部分が残っていますが、前田委員の了解が得られればB評価でよろしいですか。

(前田委員)

はい。大丈夫です。A評価としたいところだけでもB評価にします。

(松本委員)

アイデアは良いのですが。

(伊藤会長)

はい、ではB評価ということで決めましょう。

では次に14番エコアクション21認定取得支援事業補助金についてですが、これもA評価が3つ、B評価が3つですが、どなたかご意見ありますか。

(松本委員)

ISOは既に世界的に認知されているので、海外取引に有利ですよ。でも、このエコアクションは、ヒアリングを聴く限りでは、環境省の片棒を担がされている印象を受けています。安くて良いかもしれないけど、始めてまだ1件ですよ。コストが安いという事だけが、メリットになっている感じです。やることは、良いことですが、まだ少し勉強不足の感じがするし、ビジョン不足の印象なので、私はB評価にしました。

(前田委員)

商工会議所では、勉強会や説明会などをやり、どれぐらいの熱意があるかですね。熱意を掘り起こすためにやるのであれば、前向きです。

(西村委員)

これを関東エリアでやるとすれば、流山は早い方に入ります。この近くでは、船橋と、白井と、松戸で使っているだけで、非常に早い感じがします。5万円というのは、普通の支援ですね。ただ効果としては、ちょっと疑問を感じます。

(伊藤会長)

私がA評価にした理由として、今まで出てきた意見でもありましたが、新規だからといってなんでも良いという訳ではなく、B評価に変えたところで結論としておおむね妥当なのでB評価でよろしいかと思いますがいかがでしょうか。

(山口副会長)

これは廣田委員も書いておられるけれど、メリットが見えないです。

(西村委員)

これは取り組みを明確化させて、社会的メリットが見えるようにしてほしいと思います。

(山口副会長)

そうですね。企業側に何かしらのメリットがあれば、取得をして行こうと思います。

(伊藤会長)

では、B評価で決定いたします。

続きまして増額等補助金、まず1番、企業立地促進奨励金ですが、A評価が4つ、B評価が1つですので、B評価をつけた前田委員、何かありますか。

(前田委員)

私はコメントでも「期待する」にしていますから、A評価で大丈夫です。

(伊藤会長)

はい。では1番は、A評価で決定します。

次、2番、地域まちづくり協議会補助金についてですが、C評価が圧倒的に多く、私だけがB評価ですが、まだあいまいな部分がありますので、C評価で構いません。

(前田委員)

今回は、A B C Dで、4段階になりましたから、ワンランク上ですからね。見直しをなさい、という事ですね。

確かに、これまでの説明では、コミュニティ審議会の答申の事は、全然言わないので、自治会が崩壊するからみたいな事でした。まだ焦点が定まっていな感じです。それに地域の中でも意見がものすごくあります。地区社協などは、全然積極的に載っていないし、NPOもどこに行ったか、文字にも表れていません。

(西村委員)

まだ、疑問が残るのは、自治会17のブロックでやります、との事ですが、本当に17ブロックでやっていけるのでしょうか。この協議会とは、違う観点ではないか、と私は考えます。連合会組織は、何か取り組んだ形にしないといけないのではないか、と感じます。根っこにあるのは、自治会だと思うのです。それと上手く協働できないのかなと思います。

(伊藤会長)

協働というのは大事なことです。色々なところで言われていますが行政と民間、民間同士などは大切なことです。

(松本委員)

私は、174自治会を15小学校区に集約するのはやはり無理だと思うのです。

(山口副会長)

理念は非常に立派だと思うのですが、自治会だけでやったほうが、効果的じゃないのかと思います。防災は解りますが、他にどんな事がありますか、ということです。そして、もうひとつは、意思決定が不明確です。

(前田委員)

非常にスローガンは解りますが具体的なものが解りません。

(山口副会長)

われわれが昨年度の答申でも出しましたが、自治会との棲み分けが不明確です。

(伊藤会長)

いろいろと意見がでましたが、C評価は検討を要するというものですからC評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

はい。では、次の3番、防犯灯電気料金等補助金についてですが、これは全てA評価ですのでA評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

はい。では、次の4番、防犯灯設置費補助金についてですが、これも全てA評価ですのでA評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

続きまして、次の5番、福祉タクシー利用補助金についてですがこれも全てA評価ですのでA評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

続きまして、次の6番、心身障害者一時介護料助成金ですが、これも全てA評価ですのでA評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

続きまして、次の7番、就労支援施設利用者負担助成金ですが、これも全てA評価ですのでA評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

続きまして、次の8番、再生資源物回収事業奨励金ですが、これも全てA評価ですのでA評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

はい。では、次の9番、農林水産業の振興に関する補助金ですが、これはA B C色々と評価が分かれておりますが、いかがでしょうか。意見をお願いします。

まず、その前に私から申しますと、私は先ほども申し上げたように、農業に対し過保護すぎるのではないかと思うので、C評価にしました。廣田さんはA評価にしていますがいかがですか。

(廣田委員)

はい。やむを得ないという考えです。

(松本委員)

これは、草刈代ですよね。先ほどもありましたが、農家の人がやれば良いけれど高齢化の問題もあります。

(西村委員)

市全体として維持管理しなければいけません。ひとつ気になるのは市街地で、高齢化が進むと空き地に雑草が生えて、それに飛び火しないか心配になります。夏になると自治会から市に依頼して刈ってもらいます。何か対策が必要です。

(伊藤会長)

確かに時代が変わり、年月が過ぎ、考え方も変わっています。私は正直C評価にしようかB評価にしようか迷いました。迷った理由は、先ほども意見に何度か出てきますが、草が生え、環境破壊につながることです。しかし、やはり過保護すぎるということもあり、C評価にしました。では、いかがでしょうか。私はB評価でもかまいませんが。B評価ということはどうでしょうか。

(山口副会長)

では、見直しが必要であるという書き方にして、B評価でよろしいのではないかと思います。

(伊藤会長)

ではB評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

続いて10番、農用地有効活用事業奨励金ですが、A評価からD評価までさまざまですが。

(廣田委員)

私は、これもやむを得ないという理由です。

(伊藤会長)

私はD評価にしましたが、あえてD評価にこだわらない理由を言いますと、放置されたままよりは、事業者に貸して、栽培などフラワー農園にするなど有効的な活用方法もあるという考えなので、D評価にこだわらず、B評価で結構です。

(松本委員)

9番に比べたら、10番は貸して市が改善することによって貸借し、みなやりたいと言って農業をやっていました。9番の方が消極的なんです。住宅と比べたとき、住宅は、草がぼうぼうでも補助金は出ないです。農業だけが補助金が出ているわけです。10番は積極的に農地として畑をやってくれるから税金や相続が有利になるわけですよね。市が、9番の様な状況になっているものを、10番になるように指導を誘導するようにしたほうが良いと思います。

(伊藤委員)

では、いかがでしょうか。本当の意味で有効活用されれば良いですね。総合評価Bでどうですか。

(各委員)

賛同

(伊藤委員)

では、続きまして12番、中小企業資金融資利子補給金ですがB評価がひとつ、A評価が5つですがいかがでしょうか。

(松本委員)

私だけB評価ですが、借りている人が、補助でお金をもらっているだけなんです。どこの事業でもやっています。常に見直しをし、いつもケアしなければならないですよ。と言う意味のB評価です。

(伊藤会長)

1点だけ私が補足させていただきますと、今の厳しい状況の中で、中小企業にとって利子補給金というのは、必要な資金であると思います。

(前田委員)

23年12月の答申の時はB評価でした。でも自分がA評価にした理由は答申をよく読みこんでいました。そういうのをプラスしてAという評価をつけました。

(伊藤会長)

では、A評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

次の13番、商業振興共同施設維持管理費補助金ですが、A評価が2つ、B評価が3つ、C評価がひとつ、ですがいかがですか。私がC評価ですので、理由を申し上げ

ますと、街灯中心という書き方がありました。去年、私が自治会の班長をやっていて色々苦勞した時に、自治会関係で街灯についてやっていましたから、もし街灯中心だとするとどうなのか、という考えもありまして、C評価にしました。ただ絶対にC評価でなければいけないというわけではありません。

(西村委員)

LED化などを推進した団体の自助努力に応じたメリット配分の導入について検討したほうがよいのではないかなと思います。自治会の防犯灯とは意味が違うかなと思います。

(伊藤会長)

では、いかがでしょうか。ではB評価でどうでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

では、次に15番、国際基準規格認証取得支援事業補助金ですが、これはA評価が4つ、B評価が2つですがいかがですか。

(西村委員)

これはよくわからないのですが、これは一回取ったら、また審査を受けて補助金はもらえるのですか。

(事務局)

一回だけです。

(山口副会長)

要求額は0円ですか。

(事務局)

これは、新規ではないですが、昨年要求がなかったものです。

(山口副会長)

当初の予算で見ているのですか。

(事務局)

はい。そうです。24年度当初予算は0円でした。

(山口副会長)

答申を出す時に我々は、前年度予算額との対比表を見ます。当初予算額とするのか。補正が審議会で通っていれば、前年度予算額に計上されますよね。

(事務局)

今回は補正ではないです。ここ数年間はISOの該当する企業がありません。要綱だけ作ってありまして企業がこういう活動をやるというときに予算を組んでいます。

24年度補正予算で30万を計上しています。

(山口副会長)

そうですね。私が聞いたかったのは、整理の仕方として、この審議会で補正予算として通ってなければまだ0なんですね。補正で計上されていけば予算として成立し



ているから前年度の予算として計上すべきではないかと思いました。

補正は通っていますか。

(事務局)

通っています。

(山口副会長)

増額はしていないが、それはたまたま去年の補助金審議会にかけてなかった、という事で、この様な制度がありますが、よろしいでしょうか、という事ですね。

(事務局)

はい。そうです。

(伊藤会長)

ではいかがですか。A評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

では次の16番、街づくり組織活動費補助金ですが、B評価がほとんどでC評価がひとつですが。

(山口副会長)

これをやること自体は否定はしませんが、やるのであれば、きちんとやっていただきたいです。

(西村委員)

市に青写真がないと、上手くいかなのではないかと思います。街づくり協議会を作るのは良いけど、実際の行動にどうやってもっていくかです。

(山口副会長)

私はB評価でかまいません。前田さんが書かれた通り、もう条例は動いているわけですから。

(前田委員)

そうなんですよ。

(伊藤会長)

ではいかがですか。B評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

では次の17番、自主防災組織防災資機材整備事業補助金ですが、これは全員A評価ですので、A評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

では次の18番、小中学校教育研究会補助金ですが、A評価が4個、B評価が2個

ですがいかがですか。

(廣田委員)

これは公開は、されているんですか。

(伊藤会長)

どうなんですか。学校によって、学部とかの図書館に置いておくと良いんじゃないかなと思います。

(前田委員)

去年の答申はA評価でした。去年の答申にある成果の公開も、改善されているようですし。200万のうち44%が市の助成で、上納金が37%なのは、改善の余地があると思います。

(西村委員)

もう一つ理解できていないのは、流山市の教育研究会だと言いながら、上納金を出しているんです。まだじっくりきていないんですけど。積極的に、A評価にはできないような気がします。どこかでけじめをつけていただけないか、いけないと思います。

学校の先生の教育ですから、それを否定するわけにはいきませんから、何か別の予算なのか。

(前田委員)

これはずっと年々続いているものですし、今の担当課に解決してと言っても難しいでしょう。

(伊藤会長)

私は少しピントがずれているかもしれませんが。大学と小中学校とは違うかもしれませんが、私は私立大学にいたんですが、私学の場合、私学助成というものがあって、学会で出張するときは申請して、出るものです。そういう意味では、小中学校の教育研究を受けるという意味では、良いのではないかと思います。

(西村委員)

会社でも民間でも社員教育はやっていますから、県は県で出せば良いと思います。何で流山市研究会なのに、上納しているのかと思います。仕組がよくわかりません。

(前田委員)

われわれが言いたいのは、できるだけ流山市の教育研究のために予算を使って下さいということです。

(山口副会長)

私は必要性はよくわかりますが、流れの中でちょっと掴みづらいというのはあります。

(伊藤委員)

ではB評価にすべきか、いかがですか。

(山口副会長)

この制度のあり方です。

(松本委員)

基本的に、これは効果も価値もあると思います。

(伊藤会長)

ではいかがですか。A評価にしたからと言って、コメントは無しではないので、よろしいでしょうか。ではA評価ということで決定します。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

はい。では次19番、人間ドック利用助成金ですが、これはA評価でいいですか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

はい。では次20番、はり、きゅう、あんま等助成金ですが、A評価が3つB評価が2つですがいかがですか。

(山口副会長)

私は何故B評価にしたかと言いますと、本来ならば、特別会計ということで、自前でやらなければならないものです。やるのであればきちんと審議してもらうべきです。

(前田委員)

去年の答申ではA評価でした。

ただ前から特別会計の適正化について諮問していきたいと、毎年同じ事を書いているわけで、きちんと諮問したのかということです。これはちょっと指摘する必要があると思います。

(伊藤会長)

ということは前田委員は、どちらかというともB評価に近い考えですか。

(前田委員)

いいえ。A評価です。

(山口副会長)

ではこれはA評価としておいて、所見にきちんと示してほしい。というような書き方でよろしいですか。

(伊藤会長)

はい。ではA評価で決定します。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

はい。では次の22番、ノーレジ袋エコポイント付与助成金ですがこれは分散していますね。A評価がひとつ、B評価がひとつ、C評価が3つでC評価が多いです。私が、A評価にした理由は、資源を無駄使いしないという意味で、A評価にしましたが、拘りはございません。

(前田委員)

私は松本さんの言うとおりに、効果がないのではないかなと思いますね。

(西村委員)

今回の流山広報でも、キャンペーンをやりましたけど、私個人的には使うところがないんですよね。発想はいいけど、発想だけで終わっている感じがします。見直しをしたほうが良いかなと。発想は良いけど浸透させるのが難しいのでは。

(山口副会長)

ながぼんと付随してやっていますが、効果がどうなのか、悪いことではないですが。資源のために、ノーレジが良いのか、やり方を考える必要があります。ながぼんの趣旨が、中小店舗の育成振興みたいな感じです。

(事務局)

基本的には、衰退傾向にある地域の商店街を、活性化するのが、ながぼんで、きっかけとなっております。

(山口副会長)

だから大型スーパーもやってしまうと、その趣旨からは外れることになってしまいますね。市がもう少し加盟店を増やすことはしていないんですか。

(事務局)

やはりカードリーダーの機械の導入に、お金が掛かるということもあり、難しい状況です。

(松本委員)

システム導入やメンテナンス、市の方の人件費など、コストばかり掛かっているイメージです。加盟店が、これ以上増えるとは思えないです。

(事務局)

着目ポイントとして、ながぼんを普及させるために、行政ポイントとして、ノーレジ袋を始めました。本来ノーレジ袋を推奨するのであれば、ながぼんに関係なく、流山市全体に広める必要があります。

(伊藤会長)

私は環境のために、ノーレジという言葉からA評価にしてしまいましたが、皆さんの意見も聞き、やはり再検討が必要なのでは。という意味では、C評価も多いですので、C評価ということで、よろしいでしょうか。

(山口副会長)

事業そのものは理解できるが、効果がよく見えない、検討が必要ということで、良いですか。

(伊藤会長)

では、C評価ということで良いですか。

(各委員)

賛同

(伊藤委員)

では次の23番、自治会館建設事業補助金ですが、これは全員A評価ですので、A評価でよろしいでしょうか。

(各委員)

賛同

(伊藤会長)

評価の確認

ではこれで第4回補助金等審議会を終了いたします。次回は来週火曜日によりしくお願いします。ありがとうございました。

午後4時10分解散